

投稿規定 SPECIES DIVERSITY

SPECIES DIVERSITY は、日本動物分類学会が発行する「*Proceedings of the Japanese Society of Systematic Zoology*」の英語報文後継誌で、その日本語報文後継誌である『タクサ』を補完する。分類、系統、種分化、生物地理、生活史等について、あらゆる角度から研究した論文を発行し、動物の種多様性に関する国際的な情報交換を円滑にすることが本誌の目的である。

原稿の受理は、その内容が他の刊行物にこれまで投稿あるいは受理されていないことを前提とする。すべての原稿は、編集委員長と編集委員により選出された少なくとも2名の審査員により査読を受ける。出版の基準は論文の科学的価値にある。原稿の受理に関する最終的な責任は編集委員長にある。編集委員長と発行者は、著者と読者との間の情報伝達を円滑にするために、曖昧な表現や反復を削除するなど、原稿を修正する権利を有する。掲載される論文の著作権は著者と学会が有する。

投稿は原著論文、短報、総説のいずれかの形態とする。原著論文は別刷30部を無料とする。総説または短報の投稿を希望する著者は編集委員長にあらかじめ連絡をとる必要がある。

投稿: 原稿、表、および図は1つの電子ファイル（ワードやPDF）にまとめ、2 MB以下のファイルサイズにして（図の圧縮）、電子メールの添付ファイルとして編集委員長宛に投稿する：小松浩典 E-mail: h-komatu@kahaku.go.jp (〒305-0005 つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館動物研究部)。

原稿の体裁: 原稿はマイクロソフト社の「ワード」、もしくはそれと互換性のあるアプリケーションでA4判にダブル・スペースで作成する。すべてのページの下部中央に連続したページ番号を入れる。使用言語は英語とする。綴りは英式、米式（現代用語）のどちらでもよいが、全文を通して統一する。全般に「Scientific style and format: the CBE manual for authors, editors, and publishers」（ケンブリッジ大学出版1994年）に準ずる。英語を第1言語としない著者は、投稿前に原稿の文法と統語法の点検を受けなければならない。内容はある特定の分野の専門家ではない研究者にも理解できるものであること。以上の要件を満たしていない原稿は、査読の前に著者に返却される。原稿の並び順は次のとおり。

タイトルページ: 投稿論文の題名、すべての著者名とその住所を書く。連絡を受けたり、著者校正をしたりする著者の完全な住所と電話番号、ファックス番号、電子メールアドレスを記すとともに、当該研究が行われた機関から移動した著者がもしあれば、その現住所も記す。主題には、可能であれば論文の主要部で使われた主なキーワードを含めること。また、属名または種名が使われたときは、綱/門を明示すべきであるが、学名の著者（命名者）は表示しない。短いランニング・タイトル（スペースを含めて40文字未満）も付記すること。

要旨 (Abstract): すべての原稿に、研究の目的とおもな成果を300語以内でまとめた簡潔で、論文の全容がわかる要旨を付けること。使用された生物名（著者名と発表年を含む）を記す。文献の引用は含めない。

キーワード (Key words): 論文の検索に資するために、3語から10語のキーワードを要旨の下に記載すること。

緒言 (Introduction): 当該研究の位置づけを示す十分な背景情報を述べ、論文の目的を明確に示す。緒言には調査結果や結論を含めないこと。

試料および方法 (Materials and Methods): 他の研究者が追試できるように、簡潔かつ十分詳細に示し、また試料の出所をできる限り詳細に記すこと。

結果 (Results): 結果は文章、表および図の中で、順序立てて述べるべきで、同じデータを違った形で繰り返し提示することは避ける。「考察」に入れるべき事項を含めないこと。

考察 (Discussion): ここでは、緒言から導かれたあらゆる仮説と関連づけて結果を考察し、当該研究を他の研究との関連の中に位置づけるべきである。純粋な記載論文では、「試料と方法」「結果」そして必要であれば「考察」をひとまとめに記述してもよい。

謝辞 (Acknowledgments): 経済的および学術的支援についてはここに謝辞を述べる。また、著者の責任で他の刊行物からの引用許可を得る。

引用文献 (References): 本文中での文献の引用は、丸括弧 () 内に著者名と発表年をコンマで区切らず

に示す。著者が2名の場合は、すべての場合において著者名をandでつなぐ。3名以上の場合は、すべての場合で第1著者名の後に *et al.* をつける。同一著者による同年発表の論文を複数引用する場合は、発表年のあとに a, b, c 等をつけ加える。一つの丸括弧内にいくつかの文献を引用する場合はセミコロンで区切り、年代順に並べる。本文中で用いられた学名の出典は、見出しならびにシノニムリスト中のものを除き、引用文献に含めない。

引用文献は、原稿の末尾に次のような形式で第1著者名のアルファベット順に並べる。雑誌名は略記しないこと。

Baker, H. R. 1980. A redescription of *Tubificoides pseudogaster* (Dahl) (Oligochaeta: Tubificidae). *Transactions of American Microscopical Society* 99: 337–342.

Distant, W. L. 1904. *The Fauna of British India, including Ceylon and Burma. Rhynchota, Vol. 1. Heteroptera*. Taylor & Francis, London, xxxviii + 438 pp., 3 pls.

Ferraguti, M., Grassi, G. and Erséus, C. 1989. Different models of tubificid spermatozeugmata. *Hydrobiologia* 180: 73–82.

Finogenova, N. P. and Shurova, N. M. 1980. A new species of the genus *Aktedrilus* (Oligochaeta, Tubificidae) of the littoral zone of the Sea of Japan. Pp. 6–69. In: Kusakin, O. G. (Ed.) *Coastal Plankton and Benthos in the Northern Parts of the Sea of Japan*. Academy of Sciences, Vladivostok. [In Russian]

インターネット等の電子文献／サイトを引用する際は次のような形式で書くこと。

Fricke, R. and Eschmeyer, W. N. 2012. A guide to fish collections in the Catalog of Fishes database. Available at <http://research.calacademy.org/redirect?url=http://researcharchive.calacademy.org/research/Ichthyology/catalog/fishcatmain.asp> (16 March 2012).

原タイトルがローマ字を用いない言語で書かれている論文や書籍の場合は、英文に翻訳したタイトルを角かっこで囲んで表示し、さらに書籍の場合には翻字したタイトルも示すこと。

Katayama, H. and Takahashi, F. 1980. [Tadpole shrimps—their introduction to Japan and ecology]. Pp. 133–146. In: Kawai, T., Kawanabe, H. and Mizuno, N. (Eds) *Nihon no Tansuiseibutsu—Shinryaku to Kakuran no Seitaigaku [Freshwater Organisms of Japan—Ecology of Invasion and Disturbance]*. Tokai Daigaku Shuppankai, Tokyo. [In Japanese]

Makushok, V. M. 1958. [The morphology and classification of the northern blennioid fishes (Stichaeidae, Blennioidei, Pisces)]. *Trudy Zoologicheskogo Instituta Akademii Nauk SSSR* 25: 3–129. [In Russian]

Reshetnikov, Y. S. 2003. *Atlas Presnovodnykh ryb Rossii. V Luvkh Tomakh. Tom 1. Vtoroye Izdaniye [Atlas of Russian Freshwater Fishes. In Two Volumes. Vol. 1. Second Edition]*. Nauka, Moscow, 379 pp. [In Russian]

Sheiko, B. A. and Fedorov, V. V. 2000. Glava 1. Pp. 7–69. In: Moiseev, R. S. and Tokranov, A. M. (Eds) *Katalog Pozvonochnykh Kamchatki i Sopredelnykh Morskikh Akvatoriy [Catalog of the Vertebrates of Kamchatka and Adjacent Waters]*. Kamchatskiy Petchatniy Dvor, Petropavlovsk-Kamchatsky. [In Russian]

表: 表は別個のページに作成する。上部にアラビア数字による連続した表番号と内容を説明したタイトルを付ける。表内の列の見出しは簡潔にし、() に計測単位を記す。脚注のための上付文字(数字以外)を付け、脚注は最小限にとどめる。列を区切るための縦線は使わない。表のおおよその挿入場所を原稿の余白に記す。

図: すべての図(写真を含む)は電子メールの添付ファイルとして投稿する。TIFF形式、JPG形式、GIF形式、PICT形式、BMP形式、AI形式のファイルが印刷可能であるが、出版社が推奨するファイル形式はAdobe社の「フォトショップ」や「イラストレータ」で作成したEPS形式である。線画、35 mmリバーサルフィルム、印画紙に焼いた白黒写真などの非デジタル素材をスキャナで読み込んで電子化する際の推奨解像度は以下のとおり: 線画は1200 dpi, 白黒写真は266 dpi, 線画と白黒写真の組み合わせの場合は800 dpi, カラー写真は350 dpi, 線画とカラー写真の組み合わせの場合は600 dpi。片段印刷の場合の図のサイズは幅

85 mm, 両段印刷の場合は幅 177 mm に合わせ, 253 mm の高さを超えないこと. 電子ファイルを加工して図を作成する場合は上記の解像度とサイズを参考にすること.

図の説明文はそれのみで理解できるようなものとし, 別個のページに作成する. 説明には使用したすべての符号の定義を含める. 図のおおよその挿入位置を原稿の余白に記すこと.

略語および単位: 単位はできる限り国際単位系(メートル, キログラム等)を使う. 統計値および計測値に関しては, 文頭でない限り必ず 10 mm などの数字を使う. とくに下付, 上付文字のように数学の表記法と混同しやすい用法は避けるべきだが, 負の指数は一貫して使用するならばこの限りではない. 略語は標準的なもののみを使う.

文頭でない限り, Figure/Figures は Fig./Figs と略記する.

学名: どの動物の学名も, 最初に記すときにその著者(命名者)名と発表年(植物は著者名のみ)をカンマで区切って併記する. 属名は, 他の属名が介在して混同する可能性がなければ, 後の使用をイニシャルのみに省略してもよい. 生物の通俗名を用いる場合, 初回到正式な学名を併記する.

その他: 文書作成ソフトウェアを使って原稿を作成する際には以下の事項に従うこと.

- (1) 段落内では改行を行わない.
- (2) 句読点の後は 1 スペースだけ空ける.
- (3) タイトルページと見出しを除き, 行末は揃えない(つまり行の左端のみを揃え, 両端揃えにはしない).
- (4) 合成語の場合を除き, 行末にハイフンを用いない.
- (5) 必要などころにはイタリック体を使い, 下線は引かない.
- (6) 数字の 1 (イチ) の代わりに英字の 1 (エル) を用いない. また数字の 0 (ゼロ) の代わりに英字の O (オゥ) を用いない.
- (7) ページフッター機能を用いること. ページ番号を本文中に挿入しないこと.
- (8) ハイフン, n-ダッシュ, m-ダッシュを区別して使用すること.

チェック項目: 原稿を送る前に次を確認のこと.

- (1) 本文中に引用した文献がすべて「引用文献」に含まれているか.
- (2) すべての図と表が本文中に昇順で引用されているか.
- (3) 「引用文献」は適切な形式で記されているか.
- (4) 図や表の挿入箇所を記入したか.

ZooBank への登録: 命名法的行為を含む受理済み原稿については, 出版前に編集委員会が ZooBank への登録を行う. したがって, 著者が自身の論文や命名法的行為を ZooBank に登録する必要はない. 付与された ZooBank LSID は, 各論文の 1 ページ目に明記される.

初校の校正と別刷: 初校のみ著者に送られるので, 受け取り後 3 日以内に編集委員長に戻すこと. 校正段階での文章, 図などの変更は認められず(印刷ミスの訂正は例外), オリジナル原稿の変更は有料となる.

料金表の付いた別刷の注文書が初校とともに連絡責任著者に送られる. 校正後の初校とともに注文書を返送すること. 別刷は本誌発行後 3 週間以内に通常便で郵送される.